



ル 2
3097
14



日本行紀 第三十一篇

三佛蘭錫士歌

海岸の奇景

四時雲中のり墮ちとる府

湖の地の凸凹を平に

釜川坂須盛

遊亭

減價

ベニシニア地

早稲田大学
262.5
購 券

沮洳の多穽

祖戸の善兆

穽友

マ几千子地

金山守獄と為る

術始て實る山

巴拿馬港着

外ホカ鳴

巴拿馬府海

日三ノレア

W3

W4

三ノ千八百五十五年正月八日舶上ノ於て記

余が從來見レりし諸府中に於て未此三佛蘭錫

士歌の如く余が感覺と驚レりし所ハあレり而

して如何してレと下レさし正シ其真景を寫し得

べしやと實シ窮惑シと

十一月二十二日に見ルる金山ノ海岸其怪譎ノ

状喫驚に絶へトり海ノ北岸ハ悉く峻嶽絶壁ノ

して諸所ノ小クエルを被り白浪之に抵激シ

漬沫飛散し而して低シ砂ノ半ハ雜樹蔓を被り

半ハ禿連々起伏スる状恰波濤の如く以て南方

方に嘴出ス○此諸物之を蔽ふて殆此地の繁華
を蹤跡と見せしむに益此海口の左に大塔即
所謂大屋臺燈明其右に傳信臺と見る此外此
地に人住む所あらず其影も亦も見えず唯
海鳥白鷗を群密飛啼翔し砂濱上より漫サキ畫上
下徐歩し火船と見て聊其捕魚を廢する色見ゆ
海峽と入て右方に重大なる煩を備へたる砲臺
其後に二三の白屋及遠く港の中央に當りて上
に大塔を設きたる白色此が「ガウニ」ト岩並に二
三の未成らざる塔壁見ゆ○進んで内に入るに

從いて右方に漸々に家見へつゝ終に帆檣林立
せる後に都府歴然として恰も無窮なる羅馬府
の七圍の間に立ちと見るかこゝに
余始に海濱に上り歩し時に荒へ以聲を發し呼
て曰く大なる都府雲大より墮下して半水中に
没ると○海濱の小地を領し利を規る徒遠く柵
を水中に施し基礎とし家屋を營み建人巧を以
て區域を廣げしり○家礎を牢固としむる為
に此柵間を上石を以て填充せしりし間ハ實に
總て危き家屋なりけり○此家ハ大抵木造なり

而して或ハ倉庫或ハ近ク舶側に居る夏を望み
る賈人れ事と施行する家とあり

陸上の富饒ハ人群往來雜還して目を驚かす
○高低不等地と相平し務て水平に爲んかして
彼夫充満せり是此地の殆ど祭日めごとく以て平
生に異りて見ゆる所以なり○已谷を埋めて車
歩苦に^音其空中に聳い立し烟突の所を往來に○
主翁速に其家と毀ち苗屋せり四五十尺もとか
く改り作すとはいと(世くある如く)右首の
ホムペイ^地パル々ノラヌ^地と同一般の厄と

受け瓦石の下に埋をぬへし○其高五六尺許
なる圓壑状の巖特立せり上は一つの家立り其下
に役夫環附蟻聚して路て之を戴^{キマ}客人とせり既
に家に登るへき路殆断り若主翁速に其家と
と去るを恐くハ其家自毀折し其家什碎破し
落む○近日に群集雜還ハ殆思慮に絶へたり○
此割截窄坑の事に就て昔時滑稽なる古年した
り○昔時土地也開拓しとりし人既に他人の有
と成りし地も他人偶其処に居りしをハ人に
回ハを穰ふ奪ひて已か有とよし真か田主ふ力

と以て之を駢逐せさせ、敢し地銀と出し、償ん
とも為さりて、而して汚石空桶等の物を擲ら百
方之を防んとし、とり蓋此小園に由て、毎々血首
地上ふ轉ひとり、○最後ふ一坑と穿ち、桶ふ大薬
と充、長之大繩を附て、坑中小置え、とり唯いと疾
く走りし土人の、三氣行と家とを、方此禍、按る殺
ふと云と免れ、とり、
苗、木造の家造ハ、悉く廢絶し、羨且廣之石造の
新屋櫛北しして、都府の景形大に堅牢に成りと
り、○昔ハ、厚之板を布きて、床とせしと、今ハ、良尾

碍と敷り、倉庫の完備なりと、店舗の羨麗なりハ
嘖嘖細育の外ハ、其北倫よく清楚なり、送旅ハ
人常に充滿せり、夜間諸街に通せり、氣光の影を
以万人の戯場より、帰と見と、ハ此地六七年前、
下ハ、ラメリ、詳と以て、野馬牛と捕へ、地よりと
誰之を信せんや、○大合衆國東部諸府の、頻盛ハ
悉甚大にして、三佛蘭錫士歌の如きハ、談實ハ虚
談小述、若夫友人「ケルス、タクケ、此人の如き、今
より三、四年前、此地を、さき、行客、目、今、の、三
佛蘭錫士歌と見せし、其是と、何と、か、云、いと

をる實に聞まほし○余も亦今より三四年の後
再此地ふ来りなあり其特の光景を見来り
喫驚豈小からんや余今小し之を信を

三佛蘭錫士歌の寺数已ふ十二ふ過く就中其一
二か至大にして且羨なり兩して此地ふ戲場三
あり但此外無数の「コンセルトサール」音樂と
地「スペールサール」遊臺とありて共に音樂と
せせとも此ハ此教か外なり○此地第一等の戲
場ハ「モントゴメレイ」街ふあり然とも其前面「コ
」と「舗等の市店に蔽とも街上うよハ能く見

へさるなり○此高低不等の地ふ戲場と設けと
る其經營の巧なるを以て其才を視るふ足きり
○戲臺觀場此ハ戲臺の正面ふ當りハ共ハ行地
の下にあり戲場の口より入りて同様の廣き觀
場中に到る是富貴なり女流と喜ハしむる為に
設くる場ふて大小羨なり以上は其廣相同し
第一の觀場あり即第二等人物の觀る所なり○
一過之と許算もろ小座と設る事大抵二千より
二千五百の間なり○座一區他人の座り不入價
三圓第一觀場二圓尋常觀場一圓餘之畧也

第一夕小ハ「ルユクレシアホルギア」の戯と觀る
此ハ改羅巴の諸首府にて觀る者と殊小異り
事なりニ夕小ハ中戲哀喜ニと喜戲と觀る共
小略巧ニ小演しとり

游亭中に於て余各種の六七家と訪ふ〇エルド
ラト「ニウレカ」ハ「モニ」ア「ミ子」の中亭其價
中價よりを以て人多く此小遊ふ而して數人駁
雜一卓を環て坐せり〇此小ハ方小其會計を扱
受し舟子坐し彼小ハ羨衣を穿るる吏士の方に
其企中り稍多く金を持ち居たり此他其「セラバ

誅汚もとりメキ時科金商居る其面より目小焦きて
黎黒なりと其手の硬固なりと視るハ其金と獲
る難苦の状皆然なりと今ハ別務て速小之を費
し矢んとすりり〇此遊人の側小絶て兵器を見
る然マカト余が聞+く処小從バ、事小於て歩し
も缺く所マしもし夫不幸にして已か運惡き時
ハ其怨と共に遊ひて幸福を獲る者小報人に
一二の兵器と持来り術あり事疑ふ所マし
既小言か如く諸の此游亭中に聲樂を聞く其中
に或ハ其聲律畧諧へる者より集成しとる清樂

午完備しとるあり或ハ四聲歌節或ハ鼓弓若く
ハ具辭嘯吟を以て和靜なる音を奏するあり爰
小亦食卓を守り女あり而して尋常の游ハ「パロ
骨牌骨牌と「モンテ」誦誦なり○上等の游亭ハ貴者の
至る所小して衆人此隈隈を行くべき小あり然
りかト上に説く此ハ衆人至るへし○上等の
諸亭ハ之に準して其游貴し乃滿楸五十圓の金
僅に一瞬息間ハ其主と異小ハ○上亭の付具ハ
貴券と極り諸般の新珍を具し人を喜喜む
撞球舎ハ撞球臺十或ハ十二を具て羨麗也蓋諸

人の未游と要する各種の地ハ實に大小羨を盡
そより然然まかト此今葺装大抵大抵麗にして中に稀小
唯風趣と存する者あり○撞球の價一人半圓或
ハ一圓といいハ
現今人の生計萬國総て殆一樣小成りり○目今
七日十二圓或ハ十五圓小して甚好の家を借る
べく野獸の内殆廉廉なり製する衣服の價子細細育育よ
り貴しとせば是ハ反して備銀ハ甚貴し○平家
高舗其價貴く仕入の給料甚貴く一年大抵八百
圓或ハ十圓を得るなり○譬へハ「コトモドレ」彼

理の苗厨吏ハ使命の時ニ仕と退き一大逆旅ハ
食物居所の外ハ予五百圓の給料と獲り
余此事と傳授しとりし時に余ハ父母の余とし
て此有用の心ハ庖人と成しりざりし事の不平等
父母ハ告て始て之を求んと思ひき
此地貿易繁盛しして游者櫻核の多く千百萬と
以て數ふと雖總て黃白ハ乏しとし○真理他は
るに非しハ人各務て富と致さん事を求り然る
後ハ速ハ其土と去るハ凡の多くハあり○淘全場
より出を如ハ金其數巨萬ありと雖土地ハ留る

金ハ自最寡しとし○然ハかハ此惡風遠かハ
して廢るべき証ハ多般ハ景況と見て知りしハ
し○鑄金の熱と蒙らるる工人の勤苦と其業に
巧くなるると以て將來と通觀しハ凡習實に
日と追て滋良好ハ趣くなり○自今尚續き来り
て東去ハさるる人民遂に永く留仕るるハ民とな
るへし且日本ハ條約善く成り南太平洋の貿易
非常に蕃盛し加之火車路成を告て紐育より三
佛蘭錫士歌ハ通しハ此地忽ち米利堅國中最
盛なり高府の一城へし○氣候快適ハして體ハ

宜し而して余か體今此金山中小在るか如く壯
徒より久しく覺へざる所より是に因て余か
食嗜大小進ぬ而して屬自尚未饜足せしこと
躬自甚多食小過ると回視し耻て麤食を事毎
々よりき

三佛蘭錫土歌ふある事数日の後百炭と需り機
械を脩造せん為に「サクメント」谷地と云き行程三
十と経て「ベニシア」谷地小至る〇港と環る皆山陸
土の羨いと乏しく之を望み山荒きて焼く如
く樹木少なき証一目瞭然たり

「カル」名トイナス「海峡」の処小至て「湾海」ワタ窄りて其
幅半里小至る此峡前少許左小當る一嶋上小「ナ
ヘイヤル」ト誦あり此所近年生産工職甚蕃盛小
して甚速小機織と為り且至良の造船所有り〇「ベ
ニシア」ハ「カル」名トイナス「峡」を隔る事五里の所
小ありて近時まで三佛蘭七歌と伯仲を相争い
たりし小府より然しなかつ今時ハ能杭敵とべ
き難かる可〇金山中の諸府ハ西内部諸府の如
く規矩宏大小創りしは家屋扶疎なり唯川用
火船の着る一街のみ殆半里の間家屋櫛比也

セリ○府の上部は平常火船航海の機械作場
あり家屋高荘にして大抵千人の工職を入る思
ふに「ベニシア」ハ行盛大の工作府と成人事三佛
蘭錫土歌の貿易府と同日の論よりべし○會社
小屬せり諸製造全備せり其羨麗と其経営の巨
大管籟師の名譽を顯し小足り且工銀の貴きと
以て之をミルハ造興の金喫驚るに足りぬ
正に此造築小對せる所軍周圍地にして中に倉
廩兵庫兵營あり今尚經營せり○傳令隊の將官
及軍陣諸工卒の別卒と合せて見兵百人より少

しく多しといふ○金山兵隊の提督「ゼ子ラール」
ラールハ其兵を以て「ベニシア」小あり
「ベニシア」の上小寛る海湾と「スエーデン」といふ
周圍三十里圍の地ハ沮如にして數個の細流小
湖之と割截を
此淤澤千百万鷺鴨の居所なり余乃許多の鉛藥
此中小射費しとり○余生てより還實マカス小未曾て
鳥群の個を多く驚愕小絶て多く一所小聚り居
るを見も前後左右一二里の地恰も野鷺を以て
之を覆へり二三万の鳥群或ハ海或ハ澤小あり

真全群一時小驚も一時小飛翔もその翼聲洪流
の天うら下答るかとし○此淤終小乾涸して膏腴
とよるへし然らざる前小許多の獵戸野鳥を獲
る數他の五大洲中小絶て其比倫あるへか下以
○人民鮮少なるを以て諸人自是景況と利とし
獵を以て其業とし乃獵を為し小蒲菴間の好
地小其身を韜匿するなり○若天野鳥群を為し
獵を以て其水面を覆ふ時ハ銃を放○ふ利多し
とも即一袋十五或ハ二十鷺の功を獲る莫數々
是有也○然余ハ此獵法と喜以益し何人と成ハ

此法にてハ數多の誤射をなして之を矢ふと又
何の故小此鳥群を飛去せしむるやと解さば
以り余ハ即唯朝若くハ暮ハ尚て彼此相排し鷺
鴨と其飛行中小射撃せ人事と欲は○余を客と
し優待せしべニシアの医師アルホへ余に一馬
と俱しとり余是を喜ふ何人とよまハ一トセイ
ニ十の肥鷺を引て六八里の路を隔るハ一若難
事なまハなり
時小或ハ亦他の小行と為しつ即或ハ「エイサン」
小到る路二十里或ハ「ナハル」小到るニ十

六里ヨリ○此地山岡多く野麥生長せり○其土
重く夏晩の比破裂乾燥し野麥等諸草枯死し爾
後再い種蒔へ新芽と生じり○此地にして
人力を和ふも大に豊穰なる秋に逢ふより即
十二月の終正月の如^我前後^至 小雨降る時耕助し
して種と下せし七月の季八月の首^我大暑^小至
りて租戸富秋の收穫と得るなり○月今既小
金山本地小用ゆる小餘ある穀と産以数年の後小
ハ此穀他邦に輸出する物品中の最大なる物と
成方以此地の産金盡る頃ハ是に因り他邦の

金復入来りて此地金錢の融通月令に異る事
かろへし^以東^也は^其時^に精^練を^爲す^可し^也
多くの租戸既小務て豚と畜養せり任意小淤澤
中を能徊する豚ハ其脂極て多しと以て稚小
なる児豚と「ヨリス」一種の小狼来り食ふ之を
防く小大小力と盡し寸時も目古せしハあるへ
かりし
此諸除小於て大^小鉄く所の者ハ此山岡中^小木
村と飲料の良水乏しきなり○此故小一良と有
るハ此地の人ハ無價の寶なり

「丹ルリアムハルレイ」といへる廻戸の茅屋中に
余毎度宿しとり此人ハ此地畜豚屋の助手なり
○此畜豚屋の次司長を「エルレイ」といふ此人を
本軍中の管築家にして「オプベルアルカンス」
地の人なり此人自具羊齒を知り余目して三
十歳弱と比○此人の世界と跋渉し世々と經歷
せしよし亦甚奇なり○此人曾て世界中に乱生
し英吉利船三佛蘭錫士歌小在りと聞たり○是
此人其伯父「サム」を以て諸機小應し防禦を全
小せしりんとて銃弾を非常小多く鑄りし可

以なり○「エルレイ」畜獸商と其小アルカンス
より金山に來たり其途中畜獸の水牛と馴れ共
小逸去り或ハ土人小奪ひ去り是人事を危ニ大
小心を勞しとり○此人譯語を善くも若夫快
談を不附ハ余喜て之を聞く然もか小其ハ甚稀
なり余又好んで此人と共に出てるか小狩を其
ハ此人銃を善くし且靜小藪葦中に忍い入野鳥
小近く事を巧小知ともハ也○時小或ハ此人と
共小月光を踏て澤中に狩を蓋地理を請せとも
ハ濃霧の爲小路を失ひ泥中小陥る恐あり故小

余一人のこふてハ得たのしあへぬハよりけり
○既ふ言へるごとく余か力多くの野鳥を引帰る
小堤に又陸續として装束點放をる夏能さきハ
毎々楫を廢し帰る

「ベニシア」小對向せる小府と「マルチ子ス」といふ
戸數概るるに三百大船を以て他の海濱と相通
せり○此地東國より轉來する象殊に多し就中
子ウ、ツクケ、イスラント地名及「子ウ、ベトホルド」
地名より來る者最多し○余等此地小着せし日中
に來訪と受る已ふ百人小出ぬ此ハ皆此地の領

主甲比丹「フヒ」の遣せるふて夕にかへり
けり
炭と載入るる小就て必需の次序清潔を以てし
能ざる薄待ふて諸客其受せり是を以て悉く棧
僮と要請しより即多々人殊小年少の長官往
て是小答へぬ○余も亦一日岸小上り愛をへき
谿中と道進して久しく絶へるとり快樂と取る此
谿の盡る所即「マルチ子ス」より而して此谿中穿
小樹木(櫟の一種)を見り○清き紅流谿間と曲流
とる秋最愛とへし○土人耕田と産業の最一と

以田野廣潤小して善用圃せり以て圃を轉し末
住るる民唯金熱小祀さきて末さるのそまふ以
能其業と勉強るるを徴し且其産の永久まらへ
きと觀るに足まり

比地の上頭小小格の格子ありて常屋小異り
一石屋あり蓋比地小比のとき家尚一二あり○
此屋の側小二三の古板及他物と覆ひて構へ
る屋あり其下小一野床あり其側の板上小水
甕硝壺上壺と加へる鐵葉の鉢燭奴と入
る匣復筒銃あり床上小北貌野鄙の多鬚漢螺

轉銃の床尾を其首枕下小置て熟卧せり○余一
板と穿ちて眩漢と見ろ○瞻漢頃小日光の映射
をろに驚き急小起て其拳銃と執りぬ余の思へ
らく何其奇異なる寢辰なりやと而して北漢の
余と始て令且を祝るる擧状と見ろ小曾て一點
の和氣なす○然しか小余が擧動矩小中り十分
小和氣と含める色ありと見て始て必安んして
余小語りけるハ此屋ハ守獄自ハ守獄史板屋ハ
其家よりと○實小一悪小非ヤ○石函御中せり
殺聲呼んで曰く吾君ホルラ上何時か朝食を得

んとりかくいひけまハ少しく待てといひき○
今此獄ハ繫まざる者二人あり尚一人ありしかと
も其ハ余カ此処ハ着る前日ハ縊らまじり○
此三人の者共に土人と射殺して長く時を送り
とり是此者等カ自せし如く土人カ倒飛るるを
見て樂ましまり此他馬を盗み又白人を殺しこ
り此ハ此回の法ハ極て嚴刑ハ所をなり○
此給條ハ初條の唯快樂を取りし者と同じく刑
なくハ之あつぬまり○此二人ハ縊らまじり一
人の保証となりて自首し出たり此賞ハて此二

人ハ死と感し生涯獄舎ハ繫らるゝまり蓋此二
人ハ者間と伺ハ奪逸せざる者なくハ遂に此ハ
斃せぬへし今の景光を以て之と見まハ奪去示
甚難事ハハ非るへし
此守獄吏性本善良まり而して余に語まるハ此
漢初其徒三人と共ハ新莫吉利よと一踞車を携
て此ハ表り四人共和して踞車と建其業を摩ん
としとり然るに其後世ハ善あるか如く不和ハ
成り社盟碇も踞車を賣り各業を變し余を淘汰
しとりま○其一人ハ是ハ同て富を致し二人ハ

遂小其所在と知り○今此残る漢と見ると方
に曾て百萬沙金見とりし男とハ思はれ蓋然
らハハカ、る眾人と後筒螺轉の両鏡と以守護
を事と其せんヤ

金等マル子子スふてトニシアふてト一ハ舞
場小窟トいとく歎待もとり是故ハ「ヤニシア」小
てハ十一月の日教を覺へ以過しけり

圖らをも三佛蘭錫士歌ふて「トロベル」各人君小逢
以ハ喜ふべし蓋此人ハ余組育ふて始て相識
し後三年前に中丞利堅ふて邂逅し爾後更ふ消

息を聞さりしなりけり○此人此地ふて鎔金場

小居たり是を以て其家産頗る豊なりと云なり

我蒼穢の恒言小物の為小善ふぬ風も然悪くハ

あ小もといひけり○余等下田より「ホノル」地ル

小航せし海上ふて逢ひとりしいと恐し之名風

も亦然なりき○余其圖を畫き多りき即「ミスシ

スシア」各の暴風も逢ひて窮困せり状なり○

余か同寮「プロウ」君に三佛蘭錫士歌ふて此を

石板小寫しとりしかハ數日同小四百葉餘賣き

より是に因て余金小返留中ふ余か常饗の外

小始終大物候なり郷を待り且請人是の因て
鑄金買金外小他事小注意をる証と見たり○
余望り如く多般の學問文墨是と最初の實始
として爾後尚夥多の收獲を得つへくおそ

千八百五十五年正月二十二日巴拿馬の落
上小於て記す

船行疾駛其間一の記載をべき事なく正月八日
列ボカ嶋小着以○此ハ巴拿馬港止の一島嶼小
して周回五里前後と云○海淡くして大船ハ巴
馬拿府と距る事二里或ハ三里の内小入る事能

ハ以○是故小此島馬頭となり米利堅並小英吉
利火船其炭庫を此小置けり而して巴拿馬小到
るハ唯旅人其他の物品と陸小上げ又船小示そ
る為のそり

半月状の海濱小大抵戸三百口八百より予小至
る此一部落あり其南岬小米利堅會社の家屋北
方の小嘴角上小英吉利の倉庫あり○此地の人
何を以て其生産生業とそる也余之を解せ以○
良好なる「バナ」子樹及以橙頗多し其他「アナ
ニス」樹及少許の「マニス」樹あり是此地の産をる

如り

此島の極南角に一小港あり而して其所に
一谷あり此谷中其地の人其地なり○其地堅
美に他は國人は皆此谷中に埋没する者故拳をべ
かト以て千八百四十八年より今日に至るまで
金山熱生贖を希望しとりに人等と云へし○許
多人或は疲勞して其行を進むるに能くは或
は其會許齟齬し金なくして止む事を得ずこの
地に留り遂に没しとるなり○哀しむへし此谷
と海岸に地是此に着岸せし人の歩所也蓋此地

此を除け外更に見るへし地無を以てなり○是
故に英吉利の火船「ボゴタ」船の甲此舟「其其船
を以て余を巴拿馬に送り致さんといへりし度
大に余が心を喜ばしむるなり○其地は
巴拿馬の東より西に流るる岩状の地嘴上に有
而して珊瑚砂更に海中に出る度一里半なり是
に因て此に馬頭と作るなり此馬頭ハ「スパアン
セ」カラヘ「レ」^ニ「^ニ」の時ハ最好の馬頭なり然
るに今日に在りてハ唯「ス」ク「子」ル「船」及「ハ」
「リ」キ「船」の「碇」を此に投して岸上と貿易する

夏と得るなり
巴拿馬ハ常ニ此地ニ住する人より見まハ総て
見ろへる所絶ておとしろき境なかりらりと外
圃より来る人ハ一見して同有ハ感情を興
さしむるなり○羊破壊せる古塔巨岩の巔ハあ
り海水之ハ觸きて雷時決烈を其上ハ大履の崩
餘及寺あり隆起を其状画くか如し○地方ハ倚
りて他ハ塔崩れたる堤殆埋れたる池湟あり
て此地皆と横載せり○左右ハ古き壁と在して
画けるか如き門あり其前ハ架く橋其穹隆の

関石地上ハ隆起を事甚高か下以而して路此
橋より地狭の方ハ通せり○橋外ハ外府ハして
灰燼と成りたる寺其次ハ土人の舎屋其前ハ一
林あり此林の両側ハ不潔なる坑あり累々貫珠
のとし是を此地の語して「カミクシア」といハ
譯もといハ王路或ハ大路といハ義なり
脆薄なる茅屋中薄く綿布ハ襪と着たる花褐色
の婦人「トルナラス」を啞ニ襪と着せたる濃褐
色の男子「シガ」を烟らせて懸床中ハ卧り
余之を見て自余ハ「ニカラ」及「レカン」地共名

行の二三の詩情を思ひ出さし然もかト忽記載
そでかトさる汚悪なる路より再平常の「プロサ」
小移りとり而して頃小田視をり小良好なる老
白馬小乘して年少閑話なる画視鬱林中と過行
けり○然るに余か恩望無益なりきさて俄小熱
帯の悪気候恐怖をへき暴雨を以て余を脅せし
か、不愉快の情を煩ふ忘さとり○疾歩して府
小帰り大雨と酒肉舗小避け其難波なる午飯と
酸味なる酒の料小價二圓半の精巧なる午飯を
巴拿馬の他の中米利堅諸府のよく家屋位小を

らい概をり以二階三階あり是故小然るきと小
細く肢を路更小一層の暗ど加ふ○大抵三の一
小舗店薬舗或ハ旅亭小して戸数合せて三千と
を○「エスエイン」コルレギの寺院等各種甚大
荘嚴なる巨屋悉感情を興をへる敗家なり之を
見て更に一層快き思を高ふ其
中米利堅諸府の如く地小ト亦特時日の順序小
変更あり「セ子ラール」名「谷」人此を乱しとり○
然もかト此事小就て是難息なる人なりし
一巨刹の心小「ニ」リグレナダカ首府「ボグタ」セ

攻むる時小方りて殺さまじりし「ゼ子ラール」へ
ルレラ^ル各の葵儀の為小「カハル」^ク貴人の柩と
して肖像兵器等の物と以てを管建しとりの寺中
小「シールミス」^ル名を誦ふる哀聲聞へ凶服を服
しとる僧侶香画を環りて礼拝誦経し庭前小ハ
士兵戒備も其銃小銃を生しとる各種奇異此民
群より脩儀先生と見ゆる人古く火器棟中より
虚包出しとふ時々吊銃の聲聞ゆ^ハ兵卒の頭上
余か弟一小到^ル所ハ^ハ駛歩店なりさて長き書
ヒキヤリニセ

筒籥を檢閲せしかハ遂小余か名を得たりさて
駛歩錢を子へし時小雨後方小久しく見ざりし
「トレスデン」と記せし駛歩店の印記を貼しとる
書簡を得しり甚喜ふへくまむ
巴拿馬の事終りて午後「夕ボガ」^ル鳴み在留せる水
利堅船の甲比丹余を其「ギーキ」船と以て送帰さ
んといいき乃喜ひて之小余る月出る頃輕風余
を送りて「ミスシスシ」^ル致し時正小十時
火車路を穿竇數日小功せ全小せんと益蓋是
小固て従来大小艱澁なりし狭路今より極めて

容易小成るべし。○府小近き三ツの小島を會社
小て買ひ長サ三百歩許の堤を築き地方小連接せ
し如火車路の端尾と成人とせり。○彼此の功全
まを告ハ旅客貨物等を船小下し陸小上る小事
大小容易小成るべし。

